

## 佐久市佐久の先人検討委員会 議事録

日時：平成 23 年 7 月 10 日（日）  
10:00～11:50

場所：佐久勤労者福祉センター 第 3 会議室

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
  - 1) 小委員会における検討結果について
  - 2) 先人検討事業の紹介状況等について
  - 3) その他
4. 閉会

### 質疑、意見交換等要約

#### ●レイアウト等について

監修者：先人を紹介する原稿のレイアウト等について、字の大きさや、段組みの仕方、リード文や写真の配置等を工夫し、読む人の目を引くように工夫してほしい。

監修者：佐久の先人を紹介するにあたっては、松代や上田、松本、飯田などの城下町と比べ、佐久は人材に対する投資が少なく、自分達でやらざるを得なかったという特色を強調するため、先人をまとめて紹介する際には、巻頭に先人検討事業の意義を説明するような文がほしい。

監修者：先人を紹介する文章を読んだ後、追体験や学習することができるように、関連する施設や場所の情報や写真等を入れてもらいたい。そのためにも文章量の再検討が必要。

→意見を踏まえつつ、文章量・レイアウト等について再検討する。先人検討事業の意義等を説明する巻頭の文については、原稿校正作業の進捗状況に合わせ、監修者に執筆していただく。

#### ●年号の表記について

監修者：和暦の方が市民に馴染みがあり、表記は和暦を先に出す方がよい。

委員：新聞における表記や、小中学生にも読ませることから教科書における表記を考慮する必要がある。

監修者：これからの佐久を考えるうえで、小中学生に読んでもらうことは非常に大事。江戸時代から現在いたるまでの通した歴史的感覚を持つためにも、西暦を先に出し、和暦を後に表記する方が良いと思う。

委員：江戸時代の元号はたくさんあるため、小中学生のことを考えると明治より前で和暦は使いたくない。教科書も西暦が先の筈。

監修者：現在はグローバルな社会であり、日本国内しか通用しない和暦よりも西暦が優先される傾向にある。ただし、今回の事業は地域の人物史であり、明治以降は和暦の方が読者に共感されやすいと思う。西暦と和暦を併記するにあたっては、明治以降は和暦を先に、明治より前は西暦を先にする方法もある。

委員：先人が生きてきた時代背景等を考えるなら和暦の方が良い。

監修者：今の子供たちは平成生まれであり、昭和ですら馴染みがない。中学生レベルに読んでもらうことを考えるなら西暦を先にした方が良い。人物史なので和暦は必要であり、西暦・和暦のどちらを先に出すのが問題。

委員：今は西暦と和暦の使用が混乱している時期であり、どちらでもいいと思うが、生まれた年や年齢など頭の中で整理する際は、西暦の方が便利。

委員：個人的には和暦の方が時代背景がわかりやすいが、これからのことを考えると西暦が先でいいのではないかと思う。

監修者：例えば「戌の満水」のことを子ども達に教える際、西暦だと1742年なので、今から二百数十年前であることが実感できるが和暦では難しい。まず西暦を表記し、後ろに括弧書きで和暦を表記するのが一番妥当だと思う。

→『西暦（和暦）年』という表記とすることで、委員了承。

#### ●先人検討事業の紹介について

委員：広報で先人検討事業を紹介する原稿について、紹介文の修正、字の大きさやレイアウトの変更等、読む人の目を引くようにしてほしい。

→出来る限り対応する。

#### ●原稿の内容検討について

委員：文章が長過ぎる、大事な点が抜けているということのないよう、委員が集まり原稿を一枚ずつ読み合わせる検討が必要。

→原稿を各自読み込み、指摘や提案があれば7月末までに事務局まで提出する。事務局は提出された指摘・提案等をまとめて執筆者に送付し、再検討を依頼する。次回の委員会は9月上旬を目途に日程調整し、執筆者が修正した原稿を元に一枚ずつ検討していくこととする。